



地区総体、お疲れ様でした

14日のバスケットボール競技を最後に、地区総体が終わりました。目標を達成することができた人は、おめでとう！次のステージへの準備をして、がんばってください。残念ながら、思うような結果が出せなかった人もいたと思います。でも、どうか顔を上げて、次の新たな目標に向かって進んでください。

ところで、みなさんの中には、「ハイキュー！！」というマンガを知っている人も多いのではないのでしょうか。ある日偶然春高バレーのテレビ中継を見た少年が、身体的不利を補って余りあるほどの活躍をする選手に魅せられて、烏野高校排球部（バレーボール部）に入部し、個性豊かな仲間たちとともに成長していくというストーリーです。

この中で、インターハイ準々決勝で、及川という絶対的セッター率いる青葉城西高校に負けた後、悔しすぎてなかなか立ち上がれない烏野高校排球部の日向（主人公）と影山（セッター）に顧問の武田一鉄先生が近づいて、「確かに負けましたが、実りある試合だったのでは？」と、微笑みながら言いました。その武田先生に、日向は「でも負けました」と返します。それに対して武田先生は、

「負け」は弱さの証明ですか？

君たちがそこに、はいつくばったままなら、それこそが弱さの証明です。

という言葉をかけました。

一般的に、勝負事には勝ち負けがつきもので、負けるのは弱いからで、強きが勝つ・・・そんな一般論に、一石を投じてくれる言葉だと思っています。私自身も、誰かや何かに負けたと感じたら、それは自分が劣っているから、弱いからなのだと自己完結してしまうかもしれませんが、それはもしかすると、多くの人の認識かもしれません。

ですが、武田先生の「負けは弱さの証明ですか？」という言葉に、私はとても心を揺さぶられました。「負ける」ということは、二度と自分が立ち上がれないこと、二度と勝とうとしないこと、二度と次への希望に目を向けないこと、そして、二度と自分や仲間を信じられなくなったことをいうのだと、気づかされた言葉でした。

「負け」という事実だけにしか目を向けられない時は、確かにあるかもしれません。ですが、一刻も早く顔を上げ、負けの事実以外に、目を向ける必要があります。そこに目を向けられなければ、それこそ「負けを弱さの証明」にしてしまうのです。

武田先生は「負けは、今の力の認識」だとも言っています。つまり、負けという事実は、単に自分の現状把握の機会ではないということです。実際、うまくいった時や勝っている時よりも、うまくいかなかった時や負けた時にこそ気づくものは多くあり、自分自身に必要な努力すべきポイントや伸びしろを教えてくれる重要な機会だと言えます。

しかし、そうなるかどうかは、負けた後の自分の行動次第です。自分がなぜ負けたのか、と同時に、自分がその中でも勝っていたポイントを謙虚に分析して、良かった点をさらに磨き伸ばし、不足な点は克服できる点なのか、それとも他の何かを伸ばすべきなのかを判断して、行動していくことが重要です。

みなさんの心が前を向いてくれることを願って、これからも応援しています。